

ニトリホールディングス(9843)



－ 円安のマイナスを吸収し二桁の増収増益 －

ニトリホールディングスが22日に発表した2017年2月期の第3四半期の決算は、売上高が前年同期比13.2%増収の3790億円、営業利益が同28.3%増益の702億円となりました。客単価はほぼ横ばいながら客数が大きく伸びたことで既存店売上高が前年同期比7.3%増と大きく伸長し、売上高は二桁の増収を確保しています。

粗利益率は3円70銭近い円安による悪化(1.1ポイント)を、商品入れ替えなどによる原価対策による改善(3.0ポイント)で吸収し1.9ポイント上昇しています。また、販管費は149億円増加したものの、販管費率は0.4ポイント低下しています。これにより営業利益は3割近い大幅な増益を確保しています。

第3四半期まで大幅な増収増益を達成しながら通期予想は売上高が前期比9.1%増の5000億円、営業利益が同8.2%増の790億円に据え置かれました。これは第4四半期のドル円レートが115円前半と第3四半期までの105円59銭から大きく円安になることや、12月の既存店売上高が前年同月比4.5%減となったことなどのため、一桁の増収増益の見通しを据え置いています。

この結果、第4四半期(3カ月間)の営業利益は前年の第4四半期の半分程度に落ち込む計画となり、粗利益率も第3四半期までの54.7%から46.2%に大きく低下する見通しとなっています。しかし、円安で粗利益率が悪化するにしても8ポイント以上の低下は過大にみえます。なお、来期のドル円は103円台前半でほぼ100%予約済みとなっています。

また、12月の既存店売上高の前年割れも土日が昨年に比べてそれぞれ1日ずつ少なかったため、その影響(4.6ポイント)を考慮すると前年の水準を維持しており、販売に陰りがみえたということではなさそうです。こうしたことから通期業績は会社予想を上振れて着地しそうで、前期に続いて二桁の営業増益となる可能性が高そうです。

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会:日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会